

3. 男性泌尿器疾患と漢方治療

長野赤十字病院 泌尿器科
天野 俊康

男性の一生と泌尿器科との関わりは深く、各年代によって様々な疾患が挙げられる。多くの疾患に対しては、いわゆる西洋医学的な薬物療法や手術によって治療されるが、排尿障害、尿路不定愁訴、尿路結石や男性不妊症、男性更年期障害といった疾患の一部では、漢方薬が有効な場合がある。

本来、漢方薬の使用に際しては、「気」「血」「水」といった概念を理解して、同じ病態であっても、各患者の「証」を考慮して治療薬を選択することが求められ、多数の漢方薬の中から、どのように適切な処方を選択するかは、決して容易ではない。東洋医学的なトレーニングや経験を積むことにより、生薬を組み合わせる漢方治療を行うことは、一部の専門医でないと現実的には困難である。

本邦においては、漢方薬はエキス剤としてパッケージ化されており、保険診療が可能であり、比較的容易に投与可能である。患者自身に質問項目の症状がどの程度か答えてもらい、その点数を合計することによって比較的容易に患者の「証」が判定できる実虚問診票を用いたり、泌尿器科領域でも刊行されたEBMによる手引書を参考にしたりすることで、漢方薬が使用しやすくなってきている。今回、より簡便かつ効果的に漢方治療を行うために、男性泌尿器疾患の病態に対応した代表的漢方薬を挙げて、概説を試みる。

その実例として、前立腺肥大症による排尿困難や尿路不定愁訴には八味地黄丸、夜間頻尿、尿意切迫感、残尿感などの蓄尿症状には牛車腎気丸、男性不妊症には補中益気湯、男性更年期障害や勃起障害には柴胡加竜骨牡蛎湯、桂枝茯苓丸、加味逍遙散、当帰芍薬散といった処方例が挙げられる。西洋医学的治療では効果が不十分であったり、副作用などで継続できなかつたり、または患者が東洋医学的治療を希望された場合など、漢方薬治療をある程度行えるように準備しておくことは、日常診療の幅を広げるという観点からも有意義であると考えられる。